

小山をよくする会

歴史と文化を活用した地域づくり
～ふるさとを誇る住民意識の啓発事業～



赤枠で囲われたところが小山地区

(1) 小山地区の概要

大野市小山地区は、人口約2千人、世帯数は約650戸。15の集落で構成される緑豊かで自然にあふれた農村地域である。

面積は、東西2キロメートル、南北4キロメートルの約8平方キロメートル。その位置は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展してきた歴史がある。

本事業の実施主体は、地区内全戸を会員とする小山をよくする会である。

事務局を小山公民館に置き、地区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進委員45人で話し合いを行いながら、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指して活動している。

(2) 小山地区の課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇る地区である。

公民館の歴史講座を受講したことをきっかけに、平成18年頃に地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきた。

この活動をベースとして、平成22～24年度の実施された「越前おおの地域づくり交付金事業」を活用して、地域の歴史と文化を活用した地域づくり事業を展開した。

事業を実施するにあたり、次の二つを事業の柱とし、事業の実施方針とした。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、これを地区住民に知ってもらい、地域を誇りに思う住民意識の醸成すること目的とした「歴史と文化の里づくり事業」である。

もう1つは、古くから米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」を後世に承継していくことを目的とした「地域コミュニティ支援事業」である。地域住民が一丸となり、地域の課題を住民が知恵を出し合い協働で作業し解決するといった風土を継承していくために支援していくものである。

平成25年度からは、名称が変更された「越前おおの結の故郷交付金事業」を活用し、継続してこの二つの事業に取り組んだ。

(3) 事業の内容

①歴史と文化の里づくり事業

平成23年度に地域の歴史の掘り起こしを目的として開催した地域歴史講座に、講師としておいでいただいた青木豊昭氏（県立一乗谷朝倉遺跡資料館 元館長）が、小山地区の史跡などに興味を持たれ、独自に史跡調査を実施された。

その結果、南北朝時代の戦を記録した軍中状に記されている「舌城」が、御城山（上舌地係）

に存在していたことがわかってきた。

また、御城山に38基ある古墳群に墳丘の長さが約30メートルの前方後円墳が確認された。奥越地区唯一の前方後円墳と言われる山ヶ鼻6号墳（尾永見地係）に次いで発見である。

歴史的に貴重な史跡として確認された舌城を地域内外の方に知ってもらうために、前年度より散策道を整備してきた。

今年度は、全長約600mの散策道のうち、前年度に整備できなかった残り区間約400mについて、支障木の伐採や階段設置、下草刈りなどを実施した。

作業は、小山をよくする会推進委員をはじめ、地元上舌区民、小山荘歴史の会のメンバーによる共同でのものでした。

御城山は、標高244メートルで高低差は約50メートルの低い山であるが、人が歩けるような道が全くなかったところを切り開いて道を作ることは重労働であった。作業は、以下のとおり5日間、のべ35人が参加し汗を流した。

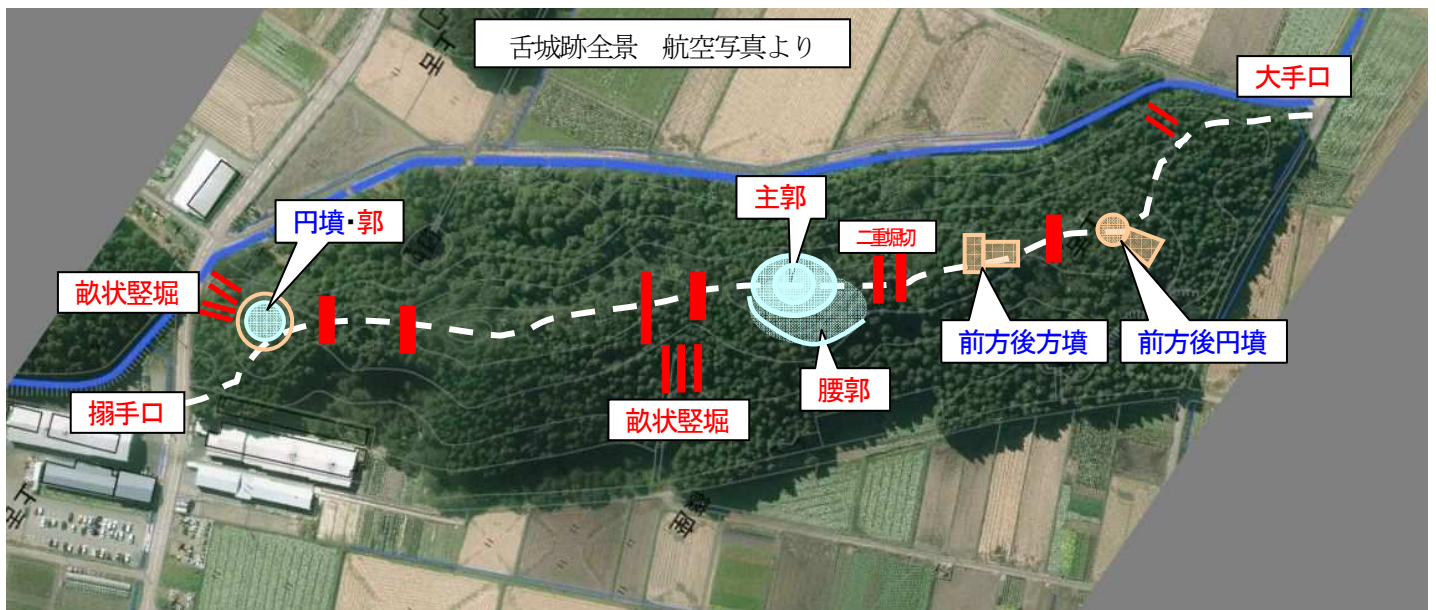
- ①6月1日 支障木伐採 18人
- ②7月26日 看板設置 3人
- ③11月5日 階段設置 14人

作業内容としては、下草刈り、立木の枝伐採、

平成25年度舌城跡遊歩道整備作業



主郭・堀切などの山城跡がはっきりと姿を現し、中世の戦いの舞台へタイムスリップしたような感覚を味わえる場所となった。



②地域コミュニティ支援事業

今年度も、5地区において集落内の問題解決するための事業と、小山地区内有志で組織された実行委員会による地域・世代間交流事業が計画され、提案された。

- ・阿難祖穴僧の洞整備（阿難祖地頭方）
- ・住宅表示板・掲示板の新設（阿難祖領家）
- ・集落センター前構内空地整備（下黒谷）
- ・右近次郎公園整地（右近次郎）
- ・ふれあい会館広場コンクリート舗装（鉏掛）
- ・住民交流事業キッズフェスタ（実行委員会）

提案された事業費総額が交付金予定額を上回ったため、小山をよくする会推進委員会において、集落の過去の事業実施状況などを考慮し交付金を配分した。

阿難祖地頭方区では、阿難祖の地名の由来とされる穴僧の洞までのアクセス道の整備を行った。車両が通行できる林道から、洞までの約200mについて、重機による整地を行い、上部約30mについては、コンクリート舗装を行い洞まで誰もが気軽に見学できるようになった。



阿難祖地頭方地区のアクセス道整備

阿難祖領家地区では、平成22年度作成した集落案内看板が来訪者等にもっと見やすい場所へ移すこと、合わせて集落内の情報伝達を図る

ことを目的に、集落入口に看板を設置した。区長を中心に、移設先や掲示板の企画等について話し合いを持ち、設置作業にあたっては、集落住民が可能な作業を協力して実施した。



阿難祖領家地区の掲示板設置

下黒谷地区では、集落センター敷地内の一部について、将来桜の植栽、花壇設置に向けての防草対策を施した赤土による基礎的な整備を行った。

区民が集う憩いの場となる公園整備への基礎整備が完了した。ここは、災害時の避難場所としても活用することも可能となる。



下黒谷地区の赤土による基礎整備

右近次郎地区では、前年度に引き続き、地区が保有する遊具広場に砂利、赤土を敷き整地した。

当初より予定した範囲が、前年度の交付金配分額の減額により未整備エリアの残すこととなった。この部分を今年度継続して整備し、予定していた箇所の整備が完了した。



右近次郎地区の広場の整地

鉦掛地区では、ふれあい会館の敷地について、一部未舗装となっていた。その部分は、平坦でない箇所や雑草が生い茂り、夜間の歩行などに危険な状態であった。

この部分について、コンクリート舗装することで、平らな広場となり、区民が安全に利用できるようになった。

区民総出で実施するバーベキュー大会なども整備したこの場所で開催していく予定であり、住民交流の場となることが期待される。



鉦掛地区のコンクリート舗装

小山公民館で活動するグループの有志により結成されたキッズフェスタ実行委員会により、小山地区全体の交流、世代を越えた交流の機会として、キッズフェスタが今年度も継続して開催された。うすと杵を使った餅つきを子どもたちに体験させる内容とした。家庭での餅つき体験が少なくなりつつある中、子どもたちに餅つきを体験させる良い機会となった。また、地域に住む餅つき熟練者を招き指導してもらったことで、世代間の交流も生まれ、地域の絆が深まったイベントとなった。

継続しての開催となったことから、住民への認知度も高まり、参加者も年々増加してきている。今回についても、参加者からは大変好評だったという声が届いている。



キッズフェスタの様相

(4) 事業の成果

①歴史と文化の里づくり事業

平成22・23年度に実施した歴史と文化の里づくり事業において開催した地区歴史講座をきっかけに、地区内に新たな史跡（舌城跡）が発見された。

歴史的に価値のある史跡を地域住民に知ってもらうための舌城跡整備は、住民の作業により実施されたことから参加者はいにしへの山城や

古墳を肌で感じ取れたようである。また、小山をよくする会の独自事業として、整備された舌城跡を含め地域の史跡をめぐる「地域史跡めぐりウルトラクイズ」を開催し、住民への周知を図るとともに、地域を誇りに思う住民意識の醸成に取り組んだ。

参加者からは、小山地区に住んでいながら「地域の歴史の知らないことが多いことに気づいた、地域の歴史に興味があった。」などの声があり、地域の歴史を知り、興味を持ってもらい、地域を誇りに思う意識が芽生えつつあると言える。

②地域コミュニティ支援事業

集落が持つ課題を集落で話し合い、集落の力で解決していくこの事業を実施したことにより、集落の共助や絆の大切さを再認識することができた。

小山地区は、農作業など地域で協力する“結の精神”が受け継がれている地区である。しかしながら、農作業の機械化や就労環境の変化などに伴い、地域をあげた共同作業の機会が減少しつつある。本事業で地域の課題を話し合い、共同作業により解決することは、“結の精神”を継承する上で大いに役立ったと思う。

また、地域交流・世代間交流を目的に実施したキッズフェスタでは、昔ながらの食文化を受け継ぐきっかけとなり、イベントを通じた交流が深まった。

(5) 今後の展望

継続したテーマを掲げ取り組んだ結果、事業に参加した人を中心に、地域を誇りに思う住民が徐々に増えている。平成24年度には、市民協働推進提案事業の採択を受け、地域の歴史学習グループが、旧大野郡内に存在する山城を紹介する書籍を発刊するなど、地域歴史を掘り起こす事業が広がりを見せている。

歴史と文化の里づくり事業においては、舌城

跡の下草刈りを毎年行うなど、地区内外の方々が気軽に散策できる道を保全していく必要がある。また、整備された遊歩道を利用し、地域住民への史跡説明会などのイベントを開催し、引き続き住民周知に力を入れ、地域の歴史を通じて、地域を誇りに思う意識をさらに広め、高めていく必要がある。

また、地域コミュニティ助成事業については、事業の目的としている“結の精神”の継承を図るため、事業を継続していく必要がある。

農作業の歴史が作り上げた助け合い、協力する精神を今後、長く継承するためには、継続した取り組みが必要である。

地域活動が活性化し、地域を誇りに思う意識や機運がより高まるよう、小山をよくする会として、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで行きたいと考えている。